［ 様式 9 ］

第二種奨学金貸与期間延長願

貸与

独立行政法人　日本学生支援機構理事長　殿

下記のとおり貸与期間の延長を希望しますので、引続き奨学金貸与の継続をお願いします。
また、卒業期が延びる場合には、返還総額が増すことを理解した上で、独立行政法人日本学生支援機構学資金の貸与期間(終期)を下記のとおり延長することを願い出ます。
なお、確認書兼個人信用情報の取扱いに関する同意書で同意し、返還誓約書で誓約した内容に加えて、貸与期間(終期)の延長に係る一切の債務に関しても、確認書兼個人信用情報の取扱いに関する同意書、返還誓約書及び日本学生支援機構諸規程に定める取扱いに従うことを誓約します。

太枠線内及び必要事項は正確に、もれなく記入し、学校に提出してください。

奨学生番号	8　　0	学籍番号		提出日	西暦　年　月　日	
				生年月日	西暦　年　月　日　(満　歳)	
大学(院) 短期大学 学校	学部 課程	学科(科) 研究科	年次	フリガナ 氏名 (自署)		印

※ 訂正を行う場合は以下の3点を守ってください　○二重線を用いて訂正　○はっきりと読み取れるように記載　○訂正内容は(訂正箇所の)直近余白に記入
なお、下記の2つの箇所を除いて訂正印は不要です。
①「変更後の借用金額」(人的保証の場合は本人印・連帯保証人実印・保証人実印、機関保証の場合は本人印による訂正印が必要)
②「保証制度」(連帯保証人欄は連帯保証人実印、保証人欄は保証人実印による訂正印が必要)

※ 本人氏名の押印欄は、「変更後の借用金額」を訂正する場合のみ必要です。

変更後の借用金額 (予定・総額)		円

借用金額　→　**右詰めで記入**

借用金額の訂正　→　**「【参考】『変更・訂正後の借用金額(予定)』『署名』欄の訂正方法等について」を参照**
(貸与様式の巻末に掲載)

※ **変更後の借用金額は、貸与期間中に貸与される総額(延長分を含む)を記入してください。**(入学時特別増額貸与奨学金分も含む)
※ 本願による貸与期間延長に加え、貸与月額も変更となる場合は、**貸与月額変更後の金額を記入**してください。
※ 本願に記載された変更後の借用金額が予定する借用金額を上回っている場合、貸与月額及び貸与終期から算出される借用金額を正しい金額として取扱います。
※ 大学学部・短期大学・専修学校専門課程(単位制)・高等専門学校(専攻科)の長期履修学生に係る第二種奨学金貸与期間延長を含みます。

現行の貸与期間	貸与始期　20　年　月　～　貸与終期　20　年　月(予定)まで
希望する貸与延長期間 (注)希望できる延長期間は **累計1年以内** (「長期履修」を除く)	●卒業(修了)見込:　20　年　月卒業(修了)見込　(注)卒業(修了)見込は、卒業に必要な最短期間 ●希望する延長期間:現行の貸与終期(予定)の翌月から　20　年　月まで ●長期履修課程の修業年限:　年　(注)延長事由が「長期履修」の場合のみ記入
延長事由 (注) 該当を☑で選択	□留学による場合　□傷病による場合　□ボランティア活動による場合 □被災又は災害(感染症の影響を含む)に起因する特殊事情による場合　□長期履修課程による場合

◎上記延長事由が生じた期間　20　年　月　～　20　年　月　(注)「**長期履修**」の場合は**記入不要**
◎上記事由により延長が必要となった理由を**詳細に**記述してください　(注)「長期履修」の場合は記入不要

休学期間 (注) 該当を☑で選択	□無　□有 → 20　年　月　日　～　20　年　月　日	(注)「**長期履修**」の場合は いずれも**記入不要**
(準)国費受給期間 (注) 該当を☑で選択	□無　□有 → □海外留学支援制度(協定派遣) □官民協同海外留学支援制度　20　年　月　～　20　年　月	

■保証制度

※人的保証の場合は、連帯保証人・保証人それぞれの自署と実印での押印、及び添付書類として印鑑登録証明書が必要です。※機関保証加入者は、貸与期間の延長に伴い保証料月額が変更となります。

※現在選択している保証制度にチェックする

□人的保証(右欄を記入)
※印鑑登録証明書を添付

機構届出の連帯保証人

私は、上記の貸与期間(終期)の延長により貸与総額が増加することを承諾し、記載の奨学生番号によって本人が負担する一切の債務につき、奨学金の返還の完了まで本人と連帯して保証し、関係法令及び返還誓約書等にしたがって債務履行の責を負います。

機構届出の**連帯保証人**:　〒　住　所　　電話番号　　実印
氏名(自署)　　生年月日　年　月　日

機構届出の保証人

私は、上記の貸与期間(終期)の延長により貸与総額が増加することを承諾し、記載の奨学生番号によって本人が負担する一切の債務につき、本人が返還すべき返還未済額の2分の1を保証し、関係法令及び返還誓約書等にしたがって債務履行の責を負います。

機構届出の**保証人**:　〒　住　所　　電話番号　　実印
氏名(自署)　　生年月日　年　月　日

□機関保証

今後貸与を受ける奨学金の保証を、引き続き公益財団法人日本国際教育支援協会に委託します。保証料は貸与金額から独立行政法人日本学生支援機構が差し引いて同協会に支払うこととしてください。

※機構届出の連帯保証人又は保証人が債務整理(破産等)中の場合は、本願提出前に「連帯保証人・保証人等変更届」を提出してください。

■親権者又は未成年後見人(本人が未成年者の場合のみ記入)

上記の者が、現在貸与を受けている奨学金について本申請を行うことに同意します。

親権者又は未成年後見人

〒　住　所　　電話番号
(親権者・未成年後見人)　氏名(自署)

〒　住　所　　電話番号
(親権者)　氏名(自署)

本人が未成年者の場合には、親権者がそれぞれの欄に自署してください。親権者が連帯保証人の場合も、本人が未成年者であれば必ず自署してください。親権者とは、民法に定める親権者(通常は両親)です。両親がいる場合は、必ず二名とも記入してください。いずれかがいない場合は一人が記入し、余白に一人の旨を記入してください。未成年後見人がいる場合は、未成年後見人が自署してください。奨学金申込時の「親権者又は未成年後見人」から変更されている場合は、余白にその旨を記入してください。

上記のとおり相違がないことを証明します。
(学校の証明)　20　年　月　日

学 校 名

関係課長(※)

※証明者は課長相当職以上の方としてください。

●学校記入欄(必須)
返還誓約書機構提出の上、チェック(☑)をして提出ください。　➡　**□提出済**

電話番号		学校番号	区分
担当者名			

ご記入いただいた情報及びあなたの奨学金に関する情報は、機構の奨学金支給業務、奨学金貸与業務(返還業務を含む)及び在籍する学校での授業料等減免業務のために利用されます。この利用目的の適正な範囲内において、当該情報(奨学金の返還状況に関する情報を含む)が、学校、金融機関、文部科学省及び業務委託先に必要に応じて提供されますが、その他の目的には利用されません。機関保証加入者については、機構が保有する個人情報のうち保証管理に必要な情報が保証機関に提供されます。また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複受給の防止等のために照会があった場合は、適正な範囲内においてあなたの情報が提供されます。

異動・補導係	郵送必要	入力不可	(26. 4)

［ 様式 9 ］

貸与

第二種奨学金貸与期間延長願

独立行政法人　日本学生支援機構理事長　殿

太枠線内及び必要事項は正確に、もれなく記入し、学校に提出してください。

下記のとおり貸与期間の延長を希望しますので、引続き奨学金貸与の継続をお願いします。
また、卒業期が延びる場合には、返還総額が増すことを理解した上で、独立行政法人日本学生支援機構学資金の貸与期間（終期）を下記のとおり延長することを願い出ます。
なお、確認書兼個人信用情報の取扱いに関する同意書で同意し、返還誓約書で誓約した内容に加えて、貸与期間（終期）の延長に係る一切の債務に関しても、確認書兼個人信用情報の取扱いに関する同意書、返還誓約書及び日本学生支援機構諸規程に定める取扱いに従うことを誓約します。

奨学生番号	8　　0	学籍番号		提出日	西暦　　年　　月　　日	
				生年月日	西暦　　年　　月　　日　（満　　歳）	
大学（院） 短期大学 学校	学部 課程	学科（科） 研究科	年次	フリガナ 氏名（自署）		印

※ 訂正を行う場合は以下の3点を守ってください　○二重線を用いて訂正　○はっきりと読み取れるように記載　○訂正内容は（訂正箇所の）直近余白に記入
なお、下記の2つの箇所を除いて訂正印は不要です。
①「変更後の借用金額」（人的保証の場合は本人印・連帯保証人実印・保証人実印、機関保証の場合は本人印による訂正印が必要）
②「保証制度」（連帯保証人欄は連帯保証人実印、保証人欄は保証人実印による訂正印が必要）

※ 本人氏名の押印欄は、「変更後の借用金額」を訂正する場合のみ必要です。

右詰で、はっきりと記載してください。

変更後の借用金額（予定・総額）	1 2 3 0 0 0 0

・変更後の金額は、延長分を含む貸与総額を記載してください。
・借用金額の訂正方法は、「【参考】「変更・訂正後の借用金額（予定）」『署名』欄の訂正方法等について」を参照ください。

※ **変更後の借用金額は、貸与期間中に貸与される総額（延長分を含む）を記入してください。**（入学時特別増額貸
※ 本額による貸与期間延長に加え、貸与月額も変更となる場合は、**貸与月額変更後の金額を記入**してください。
※ 本額に記載された変更後の借用金額が予定する借用金額を上回っている場合、貸与月額及び貸与終期から算出される借用金額を正しい金額として取扱います。
※ 大学学部・短期大学・専修学校専門課程（単位制）・高等専門学校（専攻科）の長期履修学生に係る第二種奨学金貸与期間延長を含みます。

現行の貸与期間	貸与始期　20　　年　　月　～　貸与終期　20　　年　　月（予定）まで
希望する貸与延長期間 （注）希望できる延長期間は累計1年以内（「長期履修」を除く）	●卒業（修了）見込：　20　　年　　月卒業（修了）見込 ●希望する延長期間：現行の貸与終期（予定）の翌月から　20　　年　　月まで ●長期履修課程の修業年限：　　年　（注）延長事由が「長期履修」の場合のみ記入
延長事由 （注）該当を☑で選択	□留学による場合　□傷病による場合　□ボランティア活動による場合 □被災又は災害（感染症の影響を含む）に起因する特殊事情による場合　□長期履修課程による場合

・卒業（修了）見込を超えていませんか。
・貸与終期から1年以内の範囲で記載されていますか。

◎上記延長事由が生じた期間　20　　年　　月　～　20　　年　　月　（注）「長期履修」の

◎上記事由により延長が必要となった理由を**詳細に**記述してください　（注）「長期履修」の場合は記入不要

傷病・ボランティア活動の場合、休学を伴うことが必要です。

以下のケースは、期間延長できません。
「廃止・停止」の認定報告を行ってください。
・最終学年の途中で卒業延期した。
・休学を伴わずに卒業（修了）期が延期した。
・休学からの復学後に休学とは無関係の事由で卒業期が延期した。

20　　年　　月　　日　～　20　　年　　月　　日

（注）「長期履修」の場合はいずれも記入不要

（注）該当を☑で選択　□官民協同海外留学支援制度　20　　年　　月　～　20　　年　　月

■保証制度

※人的保証の場合は、連帯保証人・保証人それぞれの自署と実印での押印、及び添付書類として印鑑登録証明書が必要です。※機関保証加入者は、貸与期間の延長に伴い保証料月額が変更となります。

※現在選択している保証制度にチェックする

□人的保証（右欄を記入）
※印鑑登録証明書を添付

機構届出の連帯保証人

私は、上記の貸与期間（終期）の延長により貸与総額が増加することを承諾し、記載の奨学生番号によって本人が負担する一切の債務につき、奨学金の返還の完了まで本人と連帯して保証し、関係法令及び返還誓約書等にしたがって債務履行の責を負います。

〒
機構届出の連帯保証人　住　所　　電話番号　　実印
連帯保証人：
生年月日　　年　　月　　日

連帯保証人・保証人の住所欄と印鑑登録証明書の住所は一致していますか。※現住所を記載してください。

住所変更がある場合は、同時に住所変更届（様式１５）を「奨学指導課　約定管理係」宛に送付ください。

機構届出の保証人

私は、関係法　ら一切の債務につき、本人が返還すべき返還未済額の2分の1を保証し、

機構届出　　電話番号　　実印
保証人：
氏名（自署）　　生年月日　　年　　月　　日

□機関保証　今後貸与を受ける奨学金の保証を、引き続き公益財団法人日本国際教育支援協会に委託します。保証料は貸与金額から独立行政法人日本学生支援機構が差し引いて同協会に支払うこととしてください。

※機構届出の連帯保証人又は保証人が債務整理（破産等）中の場合は、本願提出前に「連帯保証人・保証人等変更届」を提出してください。

■親権者又は未成年後見人（本人が未成年者の場合のみ記入）

上記の者が、現在貸与を受けている奨学金について本申請を行うことに同意します。

親権者又は未成年後見人

〒
住　所　　電話番号
（親権者・未成年後見人）
氏名（自署）

〒
住　所　　電話番号
（親権者）
氏名（自署）

本人が未成年者の場合には、親権者がそれぞれの欄に自署してください。親権者が連帯保証人の場合も、本人が未成年者であれば必ず自署してください。親権者とは、民法に定める親権者（通常は両親）です。両親がいる場合は、必ず二名とも記入してください。いずれかがいない場合は一人が記入し、余白に一人の旨を記入してください。未成年後見人がいる場合は、未成年後見人が自署してください。奨学金申込時の「親権者又は未成年後見人」から変更されている場合は、余白にその旨を記入してください。

上記のとおり相違がないことを証明します。
（学校の証明）　20　　年　　月　　日

学 校 名

関係課長（※）

※証明者は課長相当職以上の方としてください。

●学校記入欄（必須）
返還誓約書機構提出の上、チェック（☑）をして提出ください。　➡　□提出済

採用直後に満期の場合は、チェックは不要です。

電話番号	
担当者名	

ご記入いただいた情報及びあなたの奨学金に関する情報は、機構の奨学金支給業務、奨学金貸与業務（返還業務を含む）及び在籍する学校での授業料等減免業務のために利用されます。この利用目的の適正な範囲内において、当該情報（奨学金の返還状況に関する情報を含む）が、学校、金融機関、文部科学省及び業務委託先に必要に応じて提供されますが、その他の目的には利用されません。機関保証加入者については、機構が保有する個人情報のうち保証管理に必要な情報が保証機関に提供されます。また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複受給の防止等のために照会があった場合は、適正な範囲内においてあなたの情報が提供されます。

異動・補導係	郵送必要	入力不可	（26. 4）

第二種奨学金貸与期間延長願 「変更後の借用金額」確認方法

様式9「第二種奨学金貸与期間延長」の中で、
「変更後の借用金額」の欄はどうやって計算すればいいですか？



スカラネットPS（パーソナル）に学生がログインし、上部にあるタブ「詳細情報」を選択し、その下にある第二種の奨学生番号をクリックし、表示される画面の中にある「奨学金情報」の「貸与総額（予定）」を見てください（上図）。現在この学生は、このまま貸与を続けた場合、卒業までに1，440，000円を貸与することになります。その金額に対して、延長する期間を鑑みて合計した金額を記載してください。

延長期間は1年間で、月額は今までと変わらず30，000円で考えています。

1，800，000円とご記入ください。

★金額の根拠

① 現時点での貸与総額予定
＝1，440，000円

② 延長貸与分
30，000円×12か月
＝360，0000円

つまり、
①＋②である1，800，000円となる。

変更後の借用金額（予定・総額）		1	8	0	0	0	0	0

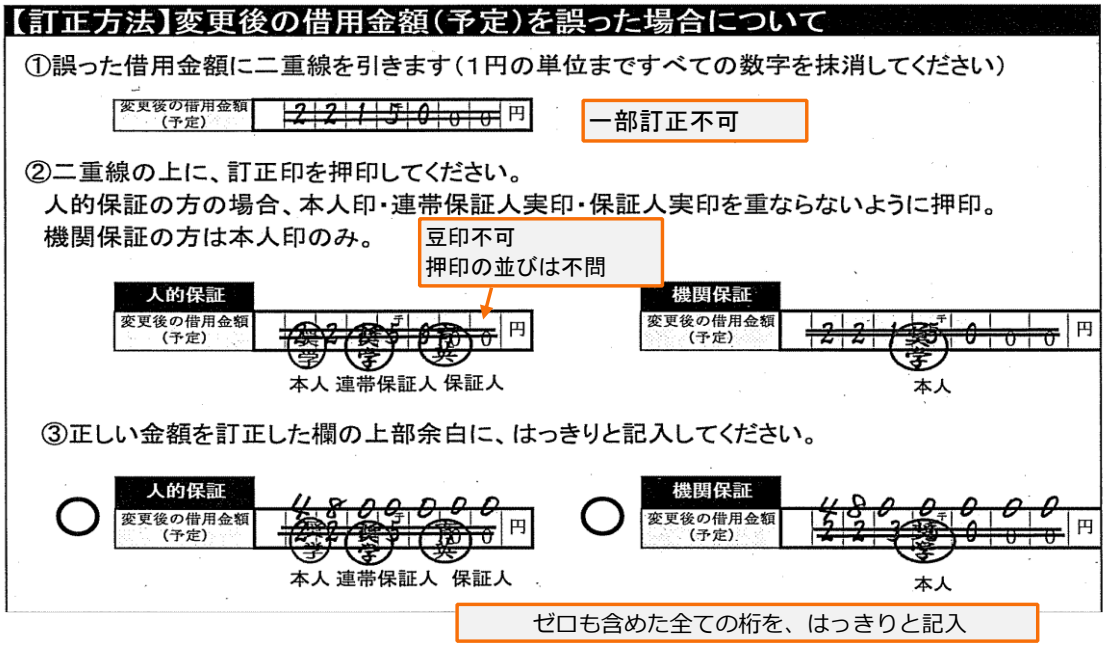
円

【参考】「変更・訂正後の借用金額（予定）」「連帯保証人・保証人」欄の訂正方法等について

願（届）出用紙の訂正は、なぞり書きや修正テープ等での訂正はできません。
署名訂正や押印についても、下記を確認し、適切に訂正してください。

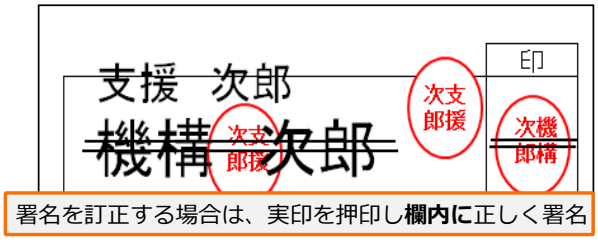
■『変更・訂正後の借用金額（予定）』欄の訂正方法について

①本人署名横に本人印を押印する
②借用金額**全体を二重線**で削除する
③訂正した**二重線上に訂正印**を押印する（訂正箇所ごとに各押印が必要）
・人的保証の場合：本人印（本人氏名横同一印）・連帯保証人と保証人の実印
・機関保証の場合：本人印（本人氏名横同一印）
④正しい金額（ゼロも含めた全ての桁）を上部余白に記入する



■『連帯保証人・保証人』欄の訂正方法について

〈例〉署名を訂正する場合
①**氏名全体に二重線**を引く
②署名を訂正する者の実印を、
二重線上に他の印と重ならないよう押印
③**欄内余白**に、文字が重ならないよう正しく署名する

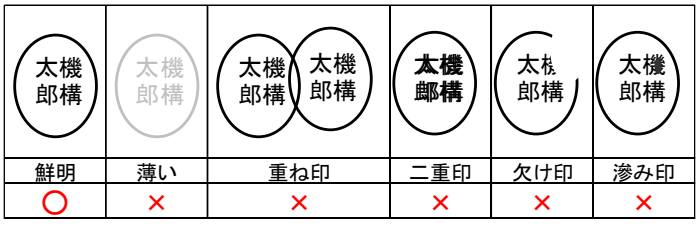


署名を訂正する場合は、実印を押印し**欄内に**正しく署名

※欄内の住所、電話番号、生年月日についても同様の方法で訂正が必要です。
※奨学生本人の自署欄は訂正印不要です。

■正しい『押印』の例

重印・二重印・欠け印・にじみ印とならないよう、**朱肉を用いて鮮明に押印**してください。



本人印は、朱肉を用いて押印※豆印不可

連帯保証人や保証人は、実印での押印のみ
※印鑑登録証明書に押印されている印